

I. 『異文化コミュニケーション』投稿規定

1. 投稿資格：本誌に投稿または寄稿できる者は以下のとおりとする。
異文化コミュニケーション学会全会員（一般会員、学生会員、法人会員、海外通信会員、名誉会員）および上記以外の者で編集委員会が特に委嘱した者。なお、共著者がいる場合は、筆頭著者のみが会員の資格を有していればよい。
2. 投稿論文の種類：研究論文、調査・実践報告、研究ノート。いずれも執筆者のオリジナルであり、かつ、未発表のものに限る。
3. 投稿論文の形式：論文は英語または日本語のいずれかで執筆されなければならない。
4. 投稿論文の言語と長さ：
和文の論文は、アブストラクト、写真、図、表、引用文献など全てを含めて約 20,000 字以内。研究ノートおよび調査/実践報告の場合は、アブストラクト、写真、図、表、引用文献など全てを含めて約 12,000 字以内。いずれも、doiの文字数は含まない。フォーマットは、A4 判、MS 明朝体、10.5 ポイントとする。なお、図表は各 200 字として数える。要旨(Abstract)は本文が和文・英文にかかわらず、和文（700 字以内）と英文(350 語以内)で記すこと。さらに、索引検索用に日本語と英語でキーワードを 3 つ要旨(Abstract)の後に記すこと。
*次ページ以降のテンプレートを参照されたい。
5. 論文で使用する言語が、第一言語でない場合は、必ず投稿まえにネイティブによるチェックを受けること。
6. 日本語論文用の執筆要項および学会ウェブ上のテンプレートを参照して書くこと。
7. 引用・引用文献・脚注：和文の論文の書式は、以下の原則によること。
 - (1) 和文の引用文献は、著者名（複数の場合は・を入れる）、発行年、題名、出版社名の順に記述すること。
[例]石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人(2013)『はじめて学ぶ 異文化コミュニケーション 多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書
 - (2) 参考文献ではなく引用文献とすること。引用文献に和文と英文の文献がある場合は、和文を先に五十音順で、次に英文をアルファベット順に列挙すること。
 - (3)本文中の引用の書き方： [例]： 八代・山本（2006）によると・・・
 - (4)脚注については、本文中の該当個所の右肩に順に番号をうち、脚注自体は本文のあとにまとめて掲載すること。
なお、詳細は、学会のウェブサイトにて執筆要項、テンプレート、表題ページ、要旨ページ、チェックリストがあるのでそちらを参照すること。
8. 調査・実験を伴う投稿論文は、所属機関の研究倫理審査におけるデータ収集の承認を得ること。研究参加者の同意をどのように得たかを含めた承認の過程について、論文内（方法論の章など）や脚注において記載すること（投稿の段階では、所属機関の名称などは伏せ字にする）。調査倫理委員会の承認を得ることができない原稿については、研究参加者や管理者より

同意を得た過程について説明する必要がある。研究倫理については、文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等」

(https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fusei/index.htm) を参照されたい。

9. 執筆者による校正は、原則再校までとし、以後はジャーナル編集委員会に一任する。なお、校正の段階での修正は、誤植、誤字・脱字の範囲内で行い、内容に関する加筆・修正は認めない。
10. ジャーナルに掲載された論文の著作権は著者に、著作権は当学会に属する。著者は、掲載された論文の電子化とその公開を承諾するものとする。なお、本紙に掲載された論文をコピーして使用あるいは、個人のウェブサイト上に公開する場合は、ジャーナル編集委員会の許可を得なければならない。

投稿の問い合わせ先：

異文化コミュニケーション学会 SIETAR JAPAN 事務局
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
(株) 国際文献社
Tel:03-5389-6239 Fax:03-3368-2822
E-mail: sieter-post@bunken.co.jp

(2023年11月11日改定)

II. 要旨テンプレート

・日本語での投稿論文の場合は、英語でも要旨を一ページ以下の要領でお書きください。・・・・・・・・

Template for Writing a Japanese Abstract

Hanako Nihon

Tozai University

Abstract

英語のタイトルは、Times New Roman、12ポイントで左に寄せて書く。英語のアブストラクトは Times New Roman、12ポイント、斜体、350語以内で執筆する。なお、執筆者の名前と所属は、論文の採択が決まってから記入する。キーワードは、3つ書き、斜体字にする。

Key words : *Japan, foreign children, intercultural communication*

III. 論文本体 テンプレート

研究論文

日本語論文執筆のためのテンプレート

日本 花子 (採択後にお名前をお書きください)

東西大学 (採択後にご所属をお書きください)

一文字分あける。

要旨

日本語のアブストラクトはMS 明朝体、10.5ポイント、700字以内で執筆する。

キーワード：日本、外国人児童生徒、異文化コミュニケーション

1. はじめに

日本語のタイトルは、MS 明朝体、12ポイントで左に詰めて書く。二行あけて名前と所属を書く。ただし、名前と所属は、公正な審査をするために審査結果が出てから記入することになる。それまでは、表題ページ以外に執筆者の名前や所属はもとより、執筆者の属性が分かる記述はすべて○○○などのように伏せ字とする必要がある。

二行あけて要旨を書く。次に一行あけてキーワードを3つ書く。さらに二行あけて本文の見出しを書く。見出しは、中央に配置し、通し番号をつける。日本語の本文は、MS 明朝体、10.5ポイントで書く。論文の長さは、研究論文の場合は、要旨(Abstract)、写真、図、表、引用文献など全てを含めて約20,000字以内、調査・実践報告、研究ノートの場合は、要旨(Abstract)、写真、図、表、引用文献など全てを含めて約12,000字以内とする。

2. 先行研究

引用の書き方に注意する。例えば、八代・山本(2006)によると異文化接触とは。。。として要約を書く。直接引用の場合は、「……………」(八代・山本, 2006, p.90)と定義している、のように直接引用の部分を「……………」で明記し、引用先のページを記述する。……

3. 結果

3.1 表の場合の表題の位置

表には、通し番号をつけ、タイトルとともに表の上を書く。

表1 日本語指導が必要な外国人児童生徒の在籍人数別学校数

年度・人数	1人	2人	3人	4人	5人以上
平成19年	2715	1087	540	279	1276
平成20年	2844	1149	526	312	1381
平成22年	2827	1186	591	349	1470
平成24年	2562	984	486	317	1415

(出所：文部科学省(2012))

3.2 写真、図の場合の表題の位置

図や写真には、表とは別に通し番号をつけ、タイトルとともに図や写真の下を書く。

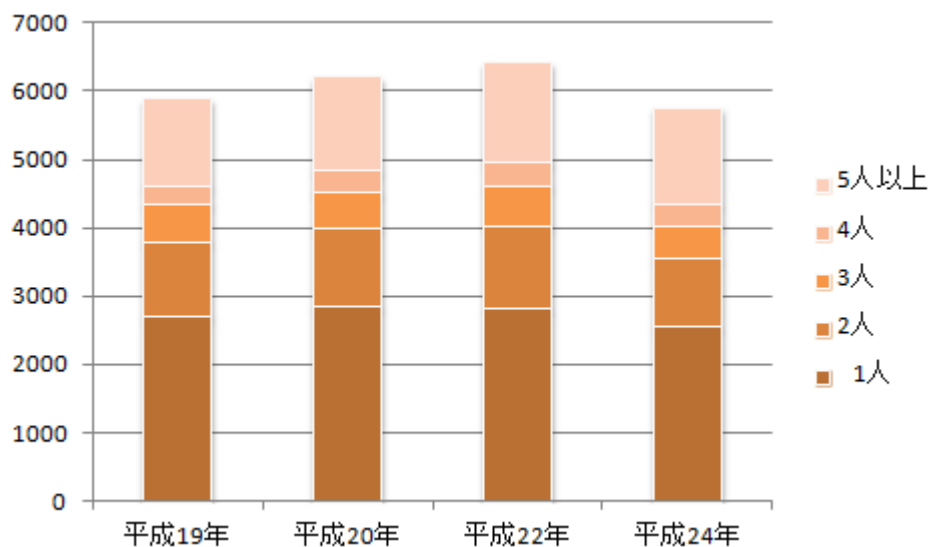


図1 日本語指導が必要な外国人児童生徒の在籍人数別学校数

(出所：文部科学省(2012))

4. 考察

脚注¹については、本文中の該当個所の右肩に順に番号をうち、脚注自体は本文のあとにまとめて掲載²する。

5. おわりに

.....
.....

謝辞

注

- ¹ 脚注とは、、
- ² 掲載とは、、、

日本語の場合は、発刊年の括弧の後には、ピリオドはありませんのでご注意ください。
また、最後にもピリオドはありません。

引用文献

石井敏 (2001) 「現代社会と異文化コミュニケーション」 石井敏・久米昭元・遠山淳『異文化コミュニケーションの理論 新しいパラダイムを求めて』有斐閣ブックス, 1-7

石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人(2013)『はじめて学ぶ 異文化コミュニケーション 多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書

林吉郎(1994)『異文化インターフェイス経営 国際化と日本的経営』日本経済新聞社

松本宏(1994)「異文化体験と表現」『比較文化評論』45(2):2-15

Brislin, R.W. (1989). Intercultural communication training. In M.K. Asante & W.B. Gudykunst (Eds.), *Handbook of international and intercultural communication* (pp. 441-457). Sage.

Hall, E.T. (1979). *The silent language*. Doubleday.

Yoshitake, S., & Ryan, S.M. (1997). A preliminary report on bilinguals' perception of changes in themselves when code-switching. *Journal of Intercultural Communication, 1*, pp. 131-143. <https://www.~>.

doi の url(論文本体の文字数にカウントされません)

英語は、APA スタイルでお願いいたします。

付属資料

付属資料がある場合は、引用文献の後ろに付ける。